



スポーツで広げよう地域の和

下阪本学区体育振興会編

今日、私たちを取り巻く生活環境は大きく変化しています。利便性の向上、情報化社会の発達、労働形態の変化等により快適な生活ができるようになってきました。その反面、それらが運動不足やストレスにつながり、私たちの健康を脅かしています。

そうした中、下阪本体育振興会では、子どもから大人まで「いつでも、どこでも、だれでも」スポーツを親しめるような事業を展開し、学区の皆さまの健康づくりに力を入れておられます。そして、地域の皆さんに世代を超えたふれ合いの場、スポーツ交流の場を提供し、それが仲間づくりや皆さんの生きがいに繋がればと思っ活動されています。地域コミュニティーの発展のお手伝いを第一に考えて日々活動されています。

体育振興会松山会長は、「交流が深まってくれば、あの人どこかで出会った人や。運動会か球技大会だったか。自然に『おはようございます。こんにちわ』と挨拶ができる。これだけでどれだけ気持ちよくなるか、また明るいまちになるのでは」と、スポーツを介してのふれ合いの大切さを常々力説されています。

下阪本体育振興会は 30 数名スタッフがおられ、下阪本学区事業推進、総合型事業、スポーツ少年団に分かれています。とにかく、体育振興会は松山会長を中心に団結力が強く、エネルギーが溢れ、情熱にあふれた団体であります。数年前、学区民運動会当日の朝まで雨が降り、開催が危ぶまれたことがありました。そんなとき、朝 7 時頃には思い思いにスタッフが集まり、スポンジ片手にグラウンドの水抜きやグラウンド整備をされているではありませんか。その姿に関係者全員心を打たれました。スタッフの熱い思いが通じ、運動会を無事開催することができました。



翻って、下阪本学区体育振興会の活動は次の通りです。



① 下阪本学区事業推進活動

例年、下阪本体育振興会では学区民運動会、球技大会、グラウンドゴルフ大会を実施しています。下阪本学区の皆さんに楽しい交流の場やふれ合いの場が提供できますのは、各自治会から選出された体育委員の皆さまのご協力・ご助力のお陰であります。いつも縁の下となって支えて下さり感謝しております。

また、天津市学区対抗大会（野球大会、グラウンドゴルフ大会、ビーチバレーボール大会、天津市民体育大会、インディアカ大会、サッカー大会）にも出場しています。今年度、「令和 4 年度学区対抗競技総合 A」優勝に輝きました。感動、すごい。

② 総合型事業の活動

社会スポーツクラブには野球部、バレーボール部、バドミントン部、卓球部、ニュースポーツ部、体操部、バスケットボール部、サッカー部、グラウンドゴルフ部の専門部があります。一つの目標に向かって汗を流すことで達成感が得られるのでは。地域の皆さん、これらの総合型事業の活動に参加し、地域住民との交流を深めてみてはいかがでしょうか。

③ 三津浜スポーツ少年団の活動

三津浜スポーツ少年団には野球部、サッカー部、バレーボール部があり、土・日・祝日を中心に活動しています。

何かに一生懸命打ち込めることはすばらしいことで、どの子の目も輝いています。スポ小の皆さん、この姿勢を忘れず、更なるステージを目指して頑張ってください。



下阪本の歴史探訪…発掘調査に携わって

下阪本の歴史を垣間見るコーナー

私たちが住んでいる下阪本の街のそこかしこには時空を超えて歴史が垣間見える様な風景が多々残されており、心を動かされる方々がおられるのではないのでしょうか。また昨今では政府機関としての文化庁の京都移転が目前となり、文化遺産に恵まれた京滋地区においては様々な歴史発見が今後とも続くと思われま。

現在も県や大津市の文化財保護課等により様々な発掘調査に取り組まれています。その都度開催される現地説明会などに於いては数百年ぶりに白日の下に現れた品々に驚嘆の思いを感じるとともに、まだまだ地面下に眠る歴史の重みに夢見る思いを禁じえません。

「湖都通信」では、このコーナーにて様々な調査動向をお知らせしていきたいと考えています。



〈宋 銭〉



〈石 畳〉



〈井 戸〉



〈鬼 瓦〉

[写真] 比叡辻遺跡現地説明会資料参照

一昨年NHKにて放映された「麒麟がくる」では様々な感動を覚えられた方が多数おられると思います。同時進行の様相を見せたコロナ禍により、残念ですが思ったほどの盛り上がりを感じることがなかったとの思いもあります。しかしながら、この下阪本の街は天台宗の門前町や坂本城の城下町としてだけでなく、鎌倉期に到る以前から大きな発展を見せてきたことを様々な歴史的資料や発掘物が物語っています。調査研究の如何では歴史が覆るような進展が見られるかも知れない下阪本の歴史に期待するとともに、皆様との「まちづくり」にも大いに貢献していきたいと思ひます。

さて昨今の調査状況ですが、何期にもわたる坂本城遺跡の発掘調査は勿論の事、近隣の坂本、穴太、比叡辻等の現地調査にて開催された説明会にての記録写真や貴重な遺物に目が触れる機会があり、更には滋賀里の埋蔵文化財センターでの定期的な常設展示などもあって文化遺産の街に住んでいる喜びを禁じえません。

現在の地表面下約 1 尺程度の土中には数百年以上さかのぼるような歴史が眠っていますが、その全てが日の目を見ることはありません。「掘り起こしてくれ！」と叫んでいる遺構や遺物の一部が目覚めるとともに、調査担当技師の知識や技術によって歴史の前面に顔を出してくるのです。昨今の発掘成果には、土師器（はじき：土器）とされる多数の器（多々破損している）を始め、漆や墨で記された青磁や漆塗りの器、硯（すずり）やすり鉢、砥石（といし）や水晶の原石や加工物だけでなく、鬼瓦やキセルの吸い口等も出土しています。

更には、水路に面していたと思われる石組みの洗い場や石組み井戸、大きな寺院にも見られるような雨だれ受けではないかと思われる石畳（いしだたみ）など成果は枚挙するまでもありません。

今後の調査進展に様々な期待を寄せているものの、中々期待通りには進まないものでもあってまなまりませんが、またこのコーナーにて発信してまいりたいと思ひます。

-下阪本学区まちづくり協議会教育福祉担当-